

衆院本会議 志位氏代表質問

志位和夫委員長は6日の衆院代表質問で、「国葬」強行、沖縄・辺野古新基地建设、新型コロナ対策で岸田首相を追及。首相は質問の中心点に一切答えられず、政権行き詰まりが浮き彫りになりました。

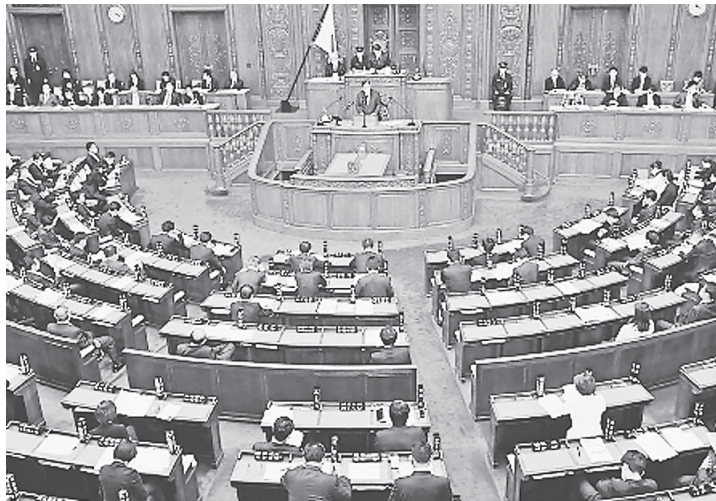
「国葬」強行

敬意と弔意強制 憲法違反は明らか

志位氏は、「国葬」を強行したことに抗議。反省を求めたのに対し首相は、批判を「真摯に受け止め」「検証を行う」と述べました。

首相が「国葬」を「故人に対する敬意と弔意を国全体として表す儀式」と定義したことに対し、志位氏は、「国の主権者は国民。『国全

体として』とは『国民全体として』となる」と強調。「『国葬』実施は敬意と弔意の強制になり、憲法19条の『思想及び良心の自由』の侵害になることは明瞭」と迫りました。首相は「指摘は当たらない」と強弁。「国葬」が憲法違反だとの認識は一切示しませんでした。



衆院本会議。質問しているのは志位氏 = 6日

辺野古新基地反対

沖縄知事選で明確な審判

「オール沖縄」の玉城デニー知事が自公推薦候補に圧勝した沖縄県知事選挙。志位氏は「民意をどう受け止めるか」と首相をただしました。しかし首相は「辺野古移設が唯一の解決策」と繰り返し、県民の選択には全く触れませんでした。知事選での「オール沖縄」候補の勝利は3回連続。辺野古新基地建设中止、普天間基地閉鎖・撤去に踏み出すべきです。

新型コロナ対応

医療体制の抜本的強化を

「第7波」による死者は1万3千人を超え最悪に。そのうえ政府は今後、発熱外来の受診対象を高齢者や基礎疾患のある人、子ども、妊婦に絞り、それ以外の患者は自己検査と自宅療養を求めようとしています。志位氏は医療へのアクセスを制限する制度改変ではなく、「医療供給体制を抜本的に強化、拡充することこそ政治の責任」と厳しく追及しました。

北朝鮮ミサイル日本通過

軍事的挑発のエスカレートを抑える 国際社会の協調した外交的対応を急げ

志位委員長が抗議談話

日本共産党の志位和夫委員長は4日、北朝鮮のミサイル発射を受け、以下の談話を発表しました。



一、北朝鮮は本日、太平洋上に向けて、日本列島の上空を飛び越える弾道ミサイルの発射を強行した。弾道ミサイルを含め核兵器関連のあらゆる活動を禁じた累次の国連安保理決議に違反し、世界の平和と安定に逆行する暴挙であり、強く非難し抗議する。

一、北朝鮮はこの間、ミサイル発射を繰り返し、

核兵器開発の推進を宣言している。北朝鮮の軍事的挑発のエスカレートを抑えるため、国際社会が協調した外交的対応を行うことが急務となっている。

日本共産党